

## － 1. 御堂筋今昔 －



大正期 淀屋橋南詰の御堂筋（拡幅前）



大正期 拡幅前の淀屋橋筋（御堂筋の旧名）



大正期 淀屋橋南詰の御堂筋（拡幅前）



1929年 拡幅後の淀屋橋南詰



1937年 完成した御堂筋とビル群



2004年 御堂筋

江戸時代からの旧名は、淀屋橋筋。幅員は6米程度だった。（大正期の写真参考。）第7代大阪市長 関一は、「都市大改造計画」を打ち出し、その主要事業が御堂筋拡幅（地下鉄併設）であった。

工事は、軟弱地盤の克服、受益者負担に反対する住民の説得など幾多の課題を抱えつつも、精力的に行われ、1937年完成。大阪市のシンボルとして市民に親しまれ、今日に及ぶ。

電線は地下に配置、又、周辺のビルに対し、高さ100尺（30米）の制限を加え、銀杏並木を整備するなど、街並みと環境に対する配慮が行われた。

## － 2. 鶴見緑地今昔 －



1970年 造成中の鶴見緑地



2004年 鶴見緑地全景

もともと、この緑地周辺一帯は、低湿地の農地であったが、昭和38年から家庭ゴミと地下鉄等の工事残土の盛土により、標高45mの人工の山を造成し、この上に大芝生地など約72万haを整備した人工の大自然公園として多くの市民に利用されていた。

1990年（平成2年）「国際花と緑の博覧会」がこの緑地で開催され、花の万博閉幕後は、我が国を代表する都市公園として、平成3年から再整備が行われた。